

学校自慢

姉高、次なるステップへ

県立姉崎高等学校長 かせ なおと 加瀬 直人



1 はじめに

本校は、京葉工業地域の発展による市原市の人口急増に伴い、地元の強い要望に応える形で昭和53年に創立された普通高校である。

生徒減少期に定員割れや問題行動等で指導困難な時期があったものの、平成16年に県教育委員会から「自己啓発指導重点校」の指定を受け、学び直しの学習指導と徹底した生徒指導の両輪で学校改革に取り組んだ。現在は地域から信頼され、進路決定率も毎年ほぼ100%を達成する学校となっている。

2 普通科で「工業の学び」

地元企業の期待に応えるべく、今年度から「ものづくりコース」を選択した2年生の実習が始まった。「工業技術基礎」の授業で、生徒は電気系の実習等に真剣に取り組んでいる。



3 学校外へ学びを拡大

(1)「ふるさとを愛する会」の発足



本年4月に、市原市と連携して地域の歴史的遺産を整備・保護する同好会が発足した。椎津城跡の整備や「歴史の旅マップ」作成、鎌倉街道や久留里街道の道標作成・設置等、

地域の活性化や広報活動に取り組んでいる。

(2)「手作りカフェ」の運営

地元の姉崎地域を盛り上げようと、生徒会が「青葉台まちづくり委員会」（青葉台町会）と連携し、地域住民が集うオリジナルカフェの準備を進めている。姉崎の特産品であるイチジクを使ったメニューの開発や資金調達、イチジク農家との交渉やカフェのデザインまで生徒が手掛けている。

4 生徒主体の活動

(1)中庭に「竪穴住居」を再現

昨年11月の文化祭では、コロナ禍で制限がある中、1年生がクラス企画として、4か月かけて竪穴住居を中庭に再現した。



(2)「ルールメイカー育成プロジェクト」

生徒会と有志の生徒が核となり、NPOの専門家の助言を受けながら、職員・保護者等との対話を通して合意形成を図り、「校則」を主体的に見直す活動に取り組んでいる。

5 おわりに

今、学校では「工業の学び」や「地域と連携した学び」、「主体性を育む学び」等の新しい学びに取り組んでいる。姉高の次なるステップへ向け、地域や地元企業等の協力を得ながら、新しい学びを発展させていきたい。